

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100216		
法人名	株式会社 アガペ		
事業所名	グループホーム アソシエ 野間大池		
所在地	福岡県福岡市南区野間4丁目18-5		
自己評価作成日	平成29年1月14日	評価結果確定日	平成29年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

毎月1回、ふれあいサロン「若久カフェ 遊」を当施設で開催。地域の方々と触れ合う機会を設けています。また若久公民館で毎月開催される「わくわくカフェ」にも参加。外出レクやイベントにて、入居者さまに少しでも楽しんでいただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アソシエ野間大池」は2ユニットからなるグループホームである。母体法人は調剤薬局でサ高住、グループホーム、小規模多機能など市内で8事業者を営んでおり、法人間で全体研修も実施されている。各事業所で年1回のアソシエ祭を行っており、その際は1階で食事、2階で催し物を提供し全職員で取り組んでいる。年間行事計画を立てリビングに座っているだけでなく行事に参加し、生活に楽しみ、張りが持てるようにしている。節分、ひな祭りには保育園児の参加があり、又中学生の職場体験も行われた。個別での買い物、散歩などにも取り組み機能維持に努めている。職員の年齢層も幅が広くそれぞれの個性を生かし業務に取り組んでいる。平成28年10月より月1回ふれあいサロン「若久カフェ遊」を当事業所で開催し社協の会長さんはじめ地域の方の参加もある。今後も地域との協力のもと益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アソシエ野間大池マニュアルを作成し、各職員に配布している。	法人の社是などが書かれた額が玄関及び事務所に飾られている。社是をもとに責任者が理念を作りそれをもとに職員全員でマニュアルを作成し、全員に配布しており、ミーティング時に話し合っている。キャリアアップ制度でどのような道に進みたいか話し合いがあり、その時などに理念の振り返りを行う。	今後振り返りの機会を多く持ち、基本理念をより深く共有して行けるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	当施設にて、毎月1回「若久カフェ 遊」を開催。南区社協・民生委員・地域包括センター・地域住民等と協力して実施している。	平成28年10月ふれあいサロン「若草カフェ 遊」を当事業所でオープンした。内容は社協と共に考え、社協の会長、地域の方たちの参加もある。季節の行事には地域の保育園児の訪問があり、又中学校の職場体験の受け入れも行った。毎月ボランティア活動でハーモニカ演奏があり、その際は利用者も一緒に歌い楽しんでいる。町内会に入会しており、地域のごみ清掃に職員、利用者も参加したり、学校の運動会にも利用者4名が行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて当施設の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。色々な業者を招いて、マンネリ化しないように努めている。ご家族からの要望など意見交換している。	二か月に1回開催し、社協、地域包括、、訪問医療などの参加があり、サプリメントの説明の上映会を行った。案内は家族全員に行い、4~5名は家族の参加がある。どのような事をしたいか家族にアンケートを取り希望に添えるように努めている。家族からの要望で近くに来た時に行事などの写真を見たいとの希望があり、玄関に掲示するようにした。議事録は家族全員に郵送し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	H28.8.19 福岡市の実地指導あり。指摘事項の改善など取り組んでいる。	昨年実施指導があり、運営事項、など一冊にして玄関に閲覧できるように置いた。初年度避難訓練を1回しか行っていなかったため、指摘を受け2回行うようにした。役所のほうへはわからないことがある時は、指導を受けるように密に連絡を取っている。運営推進会議の案内も毎回行き、市の参加も一度あった。更新申請も出向いており、空室状況の報告を行い、地域包括より入居者の案内もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では、防犯上玄関施錠を実施。	玄関は防犯上施錠を実施している。家族にも説明している。夜間は転倒予防のためセンサーマット、赤外線センサーで対応している。外部研修は管理者が受け内部に落としこんでいる。法人全体で年2回研修があり日を分けて全員参加するようにしている。言葉かけに対し、気が付いたときはそのつど注意しており、ミーティング時に全員で共有し、ケアの実践に取り組んでいる。	

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を通じて学び、職員全員に報告することで共有している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通じて学び、職員全員に報告することで共有している。	管理者が研修を受け内部に落とし込んでいる。事業所のケアマネジャーが講義し、職員、家族も参加した。公民館のわくわくカフェで外部講師を呼び研修を受けた。職員全員で共有している。必要のある時は家族に資料を渡せるように用意しており、地域包括へ橋渡しをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、契約書・重要事項説明書にて説明と同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時に随時受け付け、ミーティングで検討している。	家族の訪問は週3回程度ある。訪問時に家族からの要望なども聞き取りミーティングで検討している。毎月担当者から一筆を添えた通信があり、近況報告をしている。担当者会議で家族からの希望を聞き取る。運営推進会議では、苦情などの報告を行い、それらを運営に反映させている。	より多く家族の意見をひきだすためにも、本部よりアンケートを出すようにしてみたらどうだろうか。家族間の交流を深めるために年1回程度食事会などを開催されてみてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、職員面談にて受け付けている。	毎月のミーティングは、月の終わりの月曜日に行われ、パート職員を含め全員で参加する。書記が議事録を書きボックスに置いてある。参加できなかった人には主任より説明する。利用者全員の情報を共有する。最近では地域とつながるため取り組みはどのようにしたらよいかなどを話し合った。主任に個別面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入。自己評価シートの作成・個人面談の実施。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集に関して、年齢・性別に差別はない。	男女のバランスもとれ、年齢も20歳代から70歳代と幅が広く、就労支援で掃除、70歳代の職員は調理を受け持っている。休憩室、休憩時間も確保されている。外部研修の案内があり、キャリアアップのため休みを取り参加している。現在介護福祉士実務者研修を2名が受けている。毎月の行事企画は年間で担当を決めて企画立案をしており、それぞれの能力を發揮している。	

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	中途社員研修、本部介護研修にて実施。	入社時に本部で研修があり又6月、12月に中途社員研修にて実施されている。実務者研修の中に人権研修があり、現在2名が受けている。	広報案内があった時など、人権学習のDVDなどを借りてみてはどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部にて、年間介護研修スケジュールを作成し取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会、南区グループホームの会に参加。同業者との意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、アセスメントを実施。ご家族・本人と面談を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談(アセスメント)を実施。GHで出来ることと出来ないことの説明を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談(アセスメント)を実施。GHで出来ることと出来ないことの説明を行い、訪問看護など他のサービス利用が可能かのお話を実施している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者さまと一緒に出来る事は優先して行っており、信頼関係の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のアソシエーション配布や、状況をご家族に報告し、ご家族を巻き込んだケアを目指している。		

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限は設けていないので、いつでも来所していただける環境を作っている。	友人が訪ねて来る時は、いつでも受け入れている。行きつけの美容院には家族が対応。墓参りなどに家族の支援で行く利用者もあり、正月、お盆などには外食、外泊などもされている。個別レクとしてカラオケ、手工芸、折り紙、貼り絵なども行っている。自分で携帯電話を持ち夜になると電話をかける利用者もあり、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、他入居者との関わりを支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った入居者のご家族は、ボランティアとしてハーモニカ演奏を退居後も継続してくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングで、入居者の意向を把握しどこまで反映できるか検討している。	初回のアセスメントは家族、デイサービス、ショートステイ職員等と管理者が面談し聞き取り作成。ケアマネジャーが、プランを立て6か月ごとにアセスメントと共に見直しをする。ミーティング時に担当者から日頃の様子、現場からの情報をもらい、共有している。本人、家族の意見も聞きながらケアプランに反映していくように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを実施。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングで、入居者の状態を把握しどこまで反映できるか検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月毎に担当者会議をご家族と実施。また、ご家族来所時に随時近況報告など兼ねてお話をしている。	担当の職員が6か月ごとのアセスメント、長谷川式チェック、ケアチェックなどを担っている。3か月ごとにモニタリングを取る。日々の実施記録表の左側にプランがあり、目標を全員で共有し、月1回のミーティング時にサービス内容の確認を行い見直しにつなげている。担当者会議には家族、看護師の参加もあり、医師のコメントなども参考にしている。	

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、介護日誌にて申し送りを行い、職員全員の情報共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の代行や送迎など、職員に余裕がある時は対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前の趣味活動など把握するも、現状の出来る事との兼ね合いでなかなか難しい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は当施設協力医療機関と、今までのかかりつけ医とで選択して頂いている。	今までのかかりつけ医を希望する時は家族に対応してもらい、急な時は職員が代行する。正看護師が2ユニットに一人常勤しておりバイタルチェックを毎日行う。受信後往診記録で職員全員に申し送りをし、薬の変化があった時などは家族に連絡する。事業所の提携医は24時間体制で、急な時は医師の指示を仰ぐようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では、正看護師を配置。医療連携体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関とは、カンファレンスにて早期退院支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りの実例もあり、協力医療機関・訪問看護ステーション・ご家族と連携し支援している。	今までに一人看取りを行った。重度化した場合の対応に係る指針は書面でサインをしてもらっている。看取りの時期に入った時は医師より家族に説明する。訪問看護ステーションの看護師より看取りに対しての精神的ケアの講義を2回に分け全職員に行った。	

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル作成し、職員全員で共有している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。マニュアル作成し職員全員で共有している。	年2回の防災訓練があり、うち1回は消防署の立ち会いで夜間想定をして行った。年2回公民館より避難訓練の催事の案内があり、参加したいと思っている。備蓄は行っていない。	地域の防災訓練への参加が検討されることが期待される。水、簡単な食物などを備蓄してみてもどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のコミュニケーションから、信頼関係を築いていくよう支援している。	接遇のマニュアルもあり、言葉かけには日頃から注意し、日々のコミュニケーションから信頼関係を築いている。家族からの要望で利用者に応じた呼びかけ方をすることもある。居室にいる時はドアを閉めてもらい、プライバシーに気をつけている。写真掲載の承諾は家族にもらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のコミュニケーションから、入居者さまの意向を汲み取ることを心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々のお洋服など自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食レクを実施したり、季節間がある料理の提供を実施している。	食材は業者から取っており、味付け、盛り付けに配慮し、食欲をそそるように工夫している。おやつは事業所で手作りをしている。盛り付け、片付け、お茶碗を拭くなど手伝えることを手伝ってもらい、ねぎを切ってくれることもある。外食レクもあり、回転ずし、ファミリーレストランなどに行く。お誕生日、お盆などの時は家族と一緒に外食をする。	

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録しチェックしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	アンプル歯科との居宅療養管理指導を契約。口腔ケアについて指導・助言を頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排便の記録を実施。排泄コントロールを実施している。	各ユニットごとに一人ずつ全員の排泄チェック表がある。看護師を含めて話し合い、試し様子を見ながらリハビリパンツから布パンツへと移行した利用者もある。失禁があるときは恥ずかしい思いをしないように何気なく声かけをする。便失禁の時は使いやすい布を小さめにきり、ジャーに温め浴室に置き、汚染布として使っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認し、服薬コントロール実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴実施であるが、本人の希望により回数を決定している。	週2回10:00から夕方までの時間帯で入浴。希望の方は3回入浴あり。毎回お湯は変えており、白癬感染予防のためマットの交換も行う。好みのシャンプー、リンスなどを使用している利用者もいる。皮膚観察の場としても看護師と連携して役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった時間に就寝ではなく、各入居者のリズムで支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイル完備。記録にて服薬確認実施。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レクなどで気分転換に努めている。		

H29.3自己・外部評価表(アソシエ野間大池)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントに参加したり、ちょっとした買い物など、近所のコンビニや果物屋など職員と出かけている。	初詣、お花見、紅葉見学など季節の行事はデイスービスの車を借りて全体やユニット単位で外出を行っている。月1回は公民館の「わくわくカフェ」に行ったり、日常的にも事業所隣のコンビニに毎日のように一人ずつ職員と一緒に買い物に行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては自身でお金を持ち、管理されている。他は預かり金としてご家族より、お金を預かり必要に応じて支払いを行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望の際には、施設の電話や必要な文具を提供している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は清潔さを保つように、清掃には職員一同配慮している。	リビングはフローリングで明るく広く清潔である。1階ユニットは裏庭と中庭に面する。2階ユニットはテラスがあり、ソファ等や端によせると広い空間ができ、ポウリングゲームをする事もある。浴槽は3方向から介助ができる位置にある。脱衣所からトイレに行けるようになっており冷暖房も設備されている。トイレは4か所あり1か所は車いす対応ができる。リビングにはお雛様が飾られ室内全体が華やぎ、居心地よい共用空間ができている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは模様替えを実施したり、席替えを行い対人関係に配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、TVや冷蔵庫、ご家族の写真・本などなじみの物を置いていただいている。	居室の入口はそれぞれ趣の違う表札で飾られている。室内は家族の写真、趣味の品物などが置かれ、住み慣れた自分の家のような雰囲気が、漂っている。ベッド、タンス、カーテンは備え付けられている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りカレンダーや毎月の行事・日々の様子等の写真を飾り、手工芸なども展示している。		